

施設名：東京医科大学病院

施設形態：大学病院

院長名：山本 謙吾

プログラム統括責任者氏名：榊屋 二郎

指導責任者氏名：榊屋 二郎

指導医人数：（ 12 ）人

精神科病床数：（ 19 ）床

疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	378	32
F1	74	9
F2	756	63
F3	1544	72
F4 F50	968	18
F4 F7 F8 F9 F50	111	5
F6	152	15
その他		

施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

東京都新宿区にある東京医科大学病院メンタルヘルス科である。都心に位置する特定機能病院として、質量ともに充実した診療を行う。主要な疾患の患者を受け持ち、面接法、診断と治療計画、精神療法、薬物療法、電気けいれん療法の基本を学ぶ。更に、思春期症例、人格障害、身体合併症、コンサルテーション・リエゾン精神医療の症例は豊富であり、特殊な領域（睡眠障害、措置入院）以外幅広い臨床経験ができる。また、研究・学会発表についても指導を受けることができ、学位取得を奨励している。教育にも力を入れており、専攻医のみならず、臨床研修医、臨床実習学生を含めた屋根瓦式のシステムを構築している。各種学会の研修施設に指定

されており、精神科専門医の他、こどものこころ専門医・リエゾン専門医・日本認知症学会専門医も取得できる。産業精神医学についての研鑽も可能となっており、日本医師会認定産業医の取得も推奨している。

病棟は19床の閉鎖病棟で、約10人/月の新入院患者を受け入れている。薬物療法、精神療法、環境調整が治療の主体であるが、治療抵抗例には修正型電気けいれん療法を行う。

外来では約3600人/月の診療にあたっており、全国80大学病院の中でも屈指の外来患者数であり、それだけに多彩なケースを診ることができる。

総合病院のメンタルヘルス科として、約60人/月の患者に対しコンサルテーション・リエゾンサービス（CLS）を行っている。

これらの3つの柱がお互いを補完する形で診療が成り立っている。例えば、外来治療で入院を要する状態になったら病棟にて治療をし、軽快したらまた外来治療に移行する。一方、CLSでは内科、外科、救命救急センターなど様々な科から依頼を受け、他科との連携、精神科的治療にあたっているが、その中には身体状態が安定してからも精神科治療の継続が必要なケースも多く、その場合当科病棟または外来にての治療に移行する。

このような診療体制の特性から、うつ病や統合失調症といった主要疾患のみならず、不安障害、摂食障害やパーソナリティ障害から器質性・症状性の精神障害まで、幅広い診療を行うことができる。また、社会人大学院へ入学することにより、働きながら4年で学位を取得できる。

診療スタンスは、基本的に「目の前にいる患者は全て診る」というところにある。新宿という立地、地域の医療機関との連携もあり、多彩かつ十分数の患者が外来に集まってくる。現代のストレス社会を生きている人間は様々なストレスに

さらされ、そのために多彩な症状を呈することがある。一方、身体疾患において、常に「こころ」は影響を受け、様々な精神的反応や症状が生じる。こうした事例に対応するリエゾン精神医療は医学が高度になればなるほど大切なものとなり、その知識は全ての臨床医に必要と言える。将来、臨床医を目指す学生が身体疾患のみならず、精神面への配慮を常に行い、全人的医療を行っていただけることを望んでいる。

週間・年間スケジュール

週間スケジュール

	月	火	水	木	金	土
8:45～	病棟カンファレンス					
9:00～	初診医外来 陪席 予診	予約外診療	病棟業務 あるいは リエゾン	関連病院 にて勤務	予約外診療	病棟業務 あるいは リエゾン
12:00	抄読会参加	昼休み	昼休み	昼休み	昼休み	昼休み
13:00 ～	病棟業務	病棟業務 あるいは リエゾン業務	外来業務	関連病院 にて勤務	病棟業務 あるいは リエゾン業務	カンファランス
14:00 ～	教授回診					
15:00 ～	病棟業務 あるいは リエゾン業務	病棟業務 あるいは リエゾン業務	外来業務	関連病院 にて勤務	病棟業務 あるいは リエゾン業務	
16:30 ～	症例検討会 抄読会	リエゾン 病棟			リエゾン 病棟	

夜			関連病院 にて当直		救急診療 夜間病棟	
---	--	--	--------------	--	--------------	--

土曜日は第 2・4 土曜日は休診日

その他日曜日，祝日に当直有

年間スケジュール

4 月	オリエンテーション 院内クルズス参加（5 月以降も適宜実施、計 12 コマ）
5 月	各種精神科関連学会（任意）
6 月	院内安全研修参加（年間数回；不定期開催） 日本精神神経学会学術総会参加（発表）
7 月	東京精神医学会学術集会参加
8 月	各種精神科関連学会（任意）
9 月	各種精神科関連学会（任意）
10 月	各種精神科関連学会（任意）
11 月	院内安全研修参加 東京精神医学会学術集会参加
12 月	各種精神科関連学会（任意）
1 月	各種精神科関連学会（任意）
2 月	各種精神科関連学会（任意）
3 月	東京精神医学会学術集会参加

院内研修は他にも不定期に実施される（診療報酬，ハラスメント等）。

学会には指導医と相談の上で参加不参加を決める。業務に支障のない範囲で他の学会にも積極的に参加することが望まれる。